

応募の際の注意点

～採択されやすい応募要旨の書き方～

本資料は、2017年度の全国大会で行ったチュートリアル・セッション「採択されやすい応募要旨の書き方」でお話しした内容をまとめたものです。

査読コメントの分析

以下は、2017年度に応募のあった発表要旨に対する査読者のコメントを抜粋したものです。個人が特定されないよう、一部文言を修正し、簡略化しています。また、同じ内容・趣旨のコメントもどちらかを削除せず、そのまま掲載しています。一読してわかるように「研究方法や分析の手順、結果をもっとしっかり書いてほしい」という主旨のものが目立ちます。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ● 具体的な分析結果が述べられていない | ● 統計結果の記述が大半で、考察がほとんどない |
| ● 結果をきちんと明記したほうがよい | ● 結論に飛躍がある |
| ● 数値が示されていない | ● 結論が少し飛躍している |
| ● 分析の結果をきちんと整理して記述するべき | ● 結果、結論まで分析してから投稿すべき |
| ● 結果の記述をもう少し丁寧に記すべき | ● 研究動機しか述べられていない |
| ● 有意な数値であったかどうかの記述がない | ● 実験の手順と意図が不明 |
| ● もう少し深い考察が知りたい | ● 分析手順が不明確 |
| ● 結論についての考察がない | ● 具体的な研究方法を明記した方がいい |
| ● 考察がほとんどない | ● 具体的な分析方法と数値を示すべき |
| ● 考察をもう少し書いた方がいい | ● 具体的な分析方法や数値が明記されていない |

一方で、研究方法については詳しく説明されているものの、研究の意義や先行研究との関連について説明が不十分であることを指摘したコメントも少なくありませんでした。

- | | |
|---------------------|-----------------------------------|
| ● 仮説が不明 | ● それを改めて調査することにどんな意味があるのか不明 |
| ● 先行研究への言及がない | ● 研究・教育にどう貢献するのか不明 |
| ● 先行研究をもっとみるべき | ● 得られた知見を研究・教育にどう活用しているのかの指針を示すべき |
| ● 研究デザインと理論との関わりが不明 | ● だからどうなのか、という議論がない |
| ● 先行研究の概要が不明 | |
| ● 理論的裏付けが示されていない | |

また、全体的に分析の仕方やデータの読み取り方、言葉の定義など、細かな点に関するコメントは少なく、査読者はみな「できるだけ通してあげたい」という気持ちで審査しているようにも感じられます。

大会運営委員会からの助言

これらの点から「採択されやすい応募要旨の書き方」について、大会運営委員会として助言できることは至ってシンプルです。

応募要項に明記されているとおり、①問題の所在、②先行研究との関連、③調査・分析方法、④結果・結論、⑤引用文献一覧の5点「全て」を「しっかり」書く

なお、以下の点にもご注意ください。

1. プログラムの関係上、口頭発表には決められた本数枠があります。そのため、口頭発表に関しては、内容的には発表できる水準に達しているにも関わらず、枠の関係で不採択となることもありえます。発表を強く希望される方は、応募の際、「口頭発表希望（ポスター発表も可）」を選択されるのも1つの方法です。
2. 審査は覆面審査で、1つの応募要旨を複数名（昨年度は5名）の査読委員が審査します。ですから、仮にだれか一人が特別厳しく評価したとしても、それだけで不採用になることはありません。また、査読者の人選にあたっては発表のテーマとの関連も考慮されています。
3. 今年度より「査読の7つの観点」を公開することになりました。以下のとおりです。先に助言した5点をしっかり書けば、すべて問題なくクリアできるはずです。

査読の7つの観点

- (a) 第二言語としての日本語の習得に関連したテーマか
- (b) 第二言語習得研究に貢献しうる発表か
- (c) 研究の目的が明示的かつ妥当に述べられているか
- (d) 先行研究を踏まえ、研究史上の位置づけがなされているか
- (e) 研究目的に照らして研究方法は妥当か
- (f) 結果は明確に述べられているか
- (g) 議論（結論）は、目的・方法・結果に照らして妥当なものか

たくさんのご応募、お待ちしております！